

全社連会報

No. 3

第15回全国社会教育委員研究協議会

会期

昭和四十八年九月二十六日(水)
二十七日(木)二十八日(金)

会場

二十六日 金沢市観光会館
二十七日 石川県立社会教育センター・金沢市中央公民館・石川県社会福祉会館
二十八日 金沢市観光会館

〈第1日〉

11時30分より受付開始

12時30分～1時30分 開会行事

1時30分～3時 講演

文部省社会教育局長 今村武俊氏

3時～4時 アトラクション

○ 山中節 山中温泉観光協会

○ 御陳乗太鼓 輪島市御陳乗太鼓保存会

○ 映画「かなざわ」提供 金沢市

4時～5時 事例発表

「社会教育委員としてのあゆみ」
発表者

宮城県気仙沼市社教委員
佐々木 徳二氏

〈第2日〉

9時より分科会

○ 第1分科会 社会教育委員として住民の求める施設・設備を拡充するにはどうすればよいか

(都市部会・農村部会)

協議題 1、社会教育

2、体育・レクリエーション

○ 第2分科会 社会教育委員として時代に即応した社会教育関係団体を育成するにはどうすればよいか(都市部会・農村部会)

協議題 1、小集団の育成

2、地域団体の育成

○ 第3分科会 社会教育委員として社会教育指導者(体育・レク

打合会 司会助言

分科会 講演

分科会 事例発表

分科会 アトラクション

分科会 開会行事

分科会 運営委員会

分科会 昼食

分科会 閉会

分科会 全体会

分科会 全体会

分科会 全体会

分科会 全体会

を含む)の充実をはかるにはどうすればよいか

協議題 1、民間指導者の充実

2、行政関係指導者の充実

○ 第4分科会 社会教育委員として文化振興をはかるにはどうすればよいか

協議題 1、芸術文化の振興

2、文化財の愛護

○ 同和教育研究協議会 社会教育委員として同和教育の推進をはかるにはどうすればよいか

協議題 1、社会教育

2、体育・レクリエーション

○ 全体会

協議題 社会教育委員が取り組むべき当面の最重要施策について

(1)シンポジウム

文部省社会教育課長

沢田 徹氏

東京都立中央図書館長

貞閑 晴氏

大阪大学助教授

二関 隆美氏

閉会行事

全体討議

閉会行事

閉会行事

閉会行事

閉会行事

閉会行事

閉会行事

閉会行事

閉会行事

閉会行事

金沢大会の焦点

会長 関口隆克

昨年の札幌における第十四回全国社会教育委員研究協議会において、「市町村社会教育主事の給与に対する国庫補助の実現を期し、総力をあげて努力すること。」を決議し、昭和四十八年度文部省の要求する、市町村社会教育主事一、二〇〇名の給与費の半額九億九六〇〇万円の確保を目指して努力してきましたが、残念ながら財務当局の認めるところとならず、われわれの希望は無残にも一片の画餅に終りました。

今日の社会教育の最大の障害は指導者たる社会教育主事の質、量ともに不足をきたしていることとあります。学校教育においては、小・中学校の教員給与費一兆二〇〇〇億円に対し、国は六〇〇〇億円の国庫負担金を計上しているのに対し社会教育の面では、人件費に対する措置が皆無であります。このような社会教育軽視の傾向に対し、われわれは強い不満を抱くものであります。

文部省は社会教育の現状から、いかにしても、指導者の確保が必要であるとして、「市町村における社会教育指導者の充実強化のための施策について」の諮問を社会教育審議会に行うとともに明年度予算に「市町村社会教育主事一〇〇〇名の給与費の半額九億五〇〇万円」を要求することに決定してお

ります。
われわれは今年こそ、この要求を貫徹させなければなりません。来るべき第十五回全国社会教育委員研究協議会において、大いにこの問題を論議し、

都道府県社教連の組織活動

事務局長 長谷川 和夫

現在、全国で社会教育委員の連絡協議会が結成されているのは道府県三五団体であります。未結成なのは東京、京都、山形、長野、滋賀、鳥取、岡山、愛媛、大分、宮崎、沖縄の一一都府県であります。しかし山形、鳥取、岡山、大分、沖縄の五県は結成準備中ですから近く結成される予定です。

三五道府県団体のほか東京都の二十三市一町が連合して、東京都市社会教育委員連絡協議会を結成して活発な活動を続けています。東京都の二十三区(特別区)は品川、中野、豊島、台東、世田谷の六区以外は社会教育委員がいまだ設置されていません。
県単位の連絡協議会が結成されている場合は、社会教育委員は委嘱を受けて活動すると同時に、社会教育関係団体の構成員として県下の社会教育委員

要求貫徹の方途を講じたいと考えております。
なお、この問題のほかにも大会においては、社会教育施設の拡充、社会教育団体の育成、文化の振興、同和教育の推進等について、具体的な方策を練り、それぞれの地域において、必ず実現させるという覚悟をきめて、三日間の会期を終りたいと念願しております。

が協力して大きな力となり自由に広汎な分野で社会教育振興のための活動が可能になります。したがって社会教育予算の確保や、施設の建設、指導体制の整備、あるいは社会教育事業の推進のために、県市町村長、議員、学校長、あるいは企業団体と、社会教育の当面する諸問題の打開につとめていただくことができます。要するに社会教育委員の団体として強力に活動していることが、県市町村の社会教育推進に大きな力を発揮することができると思います。
全社連が社会教育委員の強力な全国組織として真価を発揮するためには、四十七都道府県に連絡協議会が結成され、指定都市の社会教育委員と共に活発な活動が展開されるようにならなければならぬと思います。

社会教育委員必携

福原匡彦・三角哲夫共編

定価 三〇〇円 一五一円

社会教育委員の意義と役割・社会教育の現実と問題点・社会教育と行政の関連を明確にする

社会教育委員活動事例集

定価 四八〇円 一〇一〇円

A5判・一九〇頁 (多数申込特別割引)

全国各地からよせられた社会教育委員の貴重な活動の事例を集録

社会教育審議会

定価 一〇〇円 五五円

B5判・三〇頁

「急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方について」の諮問に対する答申。これからの社会教育の支点となる必読書

全日本社会教育連合会

発行所 東京都千代田区霞が関3-2-13

国立教育会館内
TEL(03)五八〇一〇六〇八
振替 東京一七八七三五

地域にあがる研修の成果

—各地区社会教育委員研究協議会—

◆関東甲信越静岡地区研究協議会

日時 7月5日(木)～6日(金)
会場 山梨県石和町
石和観光温泉ホテル

参加者 二九一名

共通主題 地域社会と住民の要求
に対処して、社会教育委員はなにをなすべきか。

第1日 開会行事・分科会

第十分科会 社教委員は、住民の要求をとりあげ自己教育への意識をたかめるためにどのような役割を果すべきか。

1 住民要求把握にまつわる社会教育委員の任務

- ・ 社会教育委員が住民のご用向きをするのは当然である
- ・ 下から上への社会教育のため住民要求の調査は必要
- ・ 社教委員は諮問に答える前に住民意識、地域課題を把握する必要がある

2 住民要求のとりあげ方

- ・ 公民館活動を底辺としてその活動の中から住民の要求をとりあげてゆく
- ・ 各地域によって住民の要求

も課題も異なる。住民の潜在的不安をしっかりとみつけ、その顕在化をはかることが大切である

・ 予算、人的体制の拡充のため社教委員が先頭に立って力強く要求していく必要がある

第二分科会 社教委員は、社会教育施設設備のあり方と、その計画を推進するためにどのような役割をはたすべきか

1 社会教育施設に対する住民の要求をどうとりあげ、その要求にこたえるか

- 2 社会教育施設の配置計画はどうかあるべきか
- ・ 住民がその施設を要求する根拠は何か、果す機能は何かを考える

第三分科会 社教委員は、社会教育関係団体の育成とその活動の推進にどのような役割を果すべきか

- ・ 団体の自主性を尊重し、主体的活動の助長の方向を考

える

・ 新しい目的集団などに対しては、その目的・性格・事業等の明確な把握が必要

・ 社教委員は団体の実態を掴むため、専門部制を設け調査研究する必要がある

第四分科会 社教委員は、社会教育関係指導者の充実のためどのような役割を果すべきか

- ・ 社教委員は日常生活のふれあいのなかで民間有志指導

◆近畿地区研究協議会

日時 7月16日(月)～17日(火)
会場 奈良市 奈良県文化会館

参加者 三九一名

主題 生涯教育における社会教育委員の任務と役割はいかにあるべきか

協議会

1 社会教育委員会議の運営について

協議会
1 社会教育委員会議の運営について

者を発見し養成するよう努力する

・ ボランティアの発見につとめる

第2日 全体会、講演

シンポジウム

司会者 甲府市社教委員

登壇者 山梨県 三井俊弘

山梨県

小倉喜久
山梨県社教主事

赤池英至

社教委員

沢登初義

市町村教委連合会長

小林清一

講演 社会教育行政の課題とその施策について

文部省社会教育課長 沢田 徹氏

2 住民と社会教育行政の橋渡しとしての社教委員の任務と役割について

3 社教委員の研修と組織活動について

4 特定事項の指導について

5 同和教育推進方策について

第1日 開会行事、分科会研究

第一分科会 大都市部会

第二分科会 中小都市部会

第三分科会 都市近郊部会

第四分科会 過疎地域部会

第2日 全体会、講演、閉会行事

講演 社会教育委員に期待するもの

文部省社会教育局長

今村 武俊氏

閉会に際し、近畿地区社会教育委員研究協議会の名において次の宣言決議を採択した。

宣言 決議

急激な社会構造の変化に対応する生涯教育構想の上になつて社会教育委員の任務と役割を研究協議した。

その結果、社会教育委員の果すべき責務の重大さを確認するとともに、社会教育の飛躍的發展のために本研究協議会の名において左のとおり宣言決議する

記

一、社会教育委員の必置制を含め、社会教育委員制度の強化をはかる

◇東北地区研究集会

日時 7月20日(金)～21日(土)

会場 仙台市 宮城県婦人会館

参加者 二五一名

主題 生涯教育のなかで、住民の求める社会教育の条件整備はいかにあるべきか。

第1日 開会行事、講演、分科会

講演 自然保護教育

東北大学学長 加藤陸奥雄氏

全世界の人類の生命を維持するためには、残り少ない原生的自然はもとより、現在の都市環境もこ

こと。

一、社会教育振興のための長期計画策定の観点になつて先に公示された社会教育審議会答申を具体的に点検し、その実現を期すること。

一、社会教育指導体制の飛躍的整備充実のため、社会教育主事の人員費国庫負担法の実現ならびに指導員制度の拡充をはかること。

一、生涯の各時期に対応する社会教育推進のため、社会教育施設整備に対する国庫補助金の大巾な増額と定率補助の実施及び起債の増額をはかること。

一、部落の完全解放のために同和教育を社会教育の中核としてとらえ、あらゆる分野においてとりくむ推進体制の確立をはかること。

れ以上破壊することのないよう努力しなければならぬし、そのための経費を惜しんでほならないことを説いて深い感銘を与えた。

第一分科会 住民の求めに応ずる

ための社会教育(体育・レクリエーションを含む)の施設設備のあり方について。

青少年は、今どこへ集まっていけるか、公民館に集まるのは限られたもの。

・青少年のために、芸術的欲求を充たす場を与えねばならない。
・集めることから、届ける社会教育を考えねばならない。

第二分科会 社会教育(体育・レクリエーションを含む)をより推進するための指導者の充実方策について。

・団体の会長を指導者にするとは活動は鈍くなる。

第三分科会 現代社会における社会教育の学習課題と展望について

・住民の要求の引出し方が大事だ。
・東北大学開放センターは、地域の要望に依っている。

・学習の課題で経済問題はさけてしまふ。

第四分科会 豊かな人間性を育てるための文化振興方策について。
・文化振興について理事者側の理解がたりない。

・特技をもつ者を登録させ(公民銀行)その同好会に指導してもらう。

第2日 分科会報告、全体会

各分科会の報告について討議が行なわれたが「ボランティア活動」に議論が集中したほか、社教委員の権限について、研究集会の持ち方、文化振興の方策等について熱心な質疑、討論が行なわれた。

◇九州地区研究協議会

日時 8月28日(火)

会場 全体会 熊本市社会教育会館

分科会 熊本県婦人会館

参加者 二二〇名

研究主題は、全国大会に準じ第一分科会より第三分科会を設けて討議

した。

講演 「当面する社会教育の諸問題と今後の方向」

熊本女子短期大学教授

堀 光之助氏

◇北海道地区研修大会

日時 9月6日(木)～7日(金)
会場 滝川市文化センター
大会テーマ

社会教育委員の活動と社会教育推進のための具体策はいかにあるべきか

第一分科会

住民の要求にこたえるための社会教育施設設備のあり方

・公民館、図書館等の施設設備の充実について

・社会教育施設等の効率的な活用について

第二分科会

社会教育の動向にこたえるための社会教育関係団体の育成方策

1、青少年・成人団体部会
・各種団体の活動内容のあり方

・団体への望ましい援助のあり方
2、文化・体育団体部会
(テーマは(1)と同じ)

第三分科会

社会教育の飛躍的な推進をはかるための指導者の充実方策

・社教主事、公民館主事、体育主事、社教指導員等の指導者の充

実を如何にしてはかるか
・民間指導者の養成と活動促進を

いかにほかるか

パネルディスカッション
司会者 北星学園大学教授
佐々木隆介氏

講演 「北海道と自然」

北海道文化財専門委員
斉藤春雄氏

詫間 晋平 著 五五〇円

幼児・子どもの性と教育

黒川 義和 著 六〇〇円

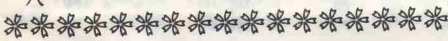
思春期の性と教育

村松 博雄・能美 光房 共著 六九〇円

青年期の性と教育



東京都千代田区霞が関三二二二(国立教育会館内) TEL (03)五八〇一〇六〇八
〒100 財団法人 全日本社会教育連合会



随想 社会教育団体育成への期待

望月 久照

今回、金沢市に開催される、第15回全国社会教育委員研究協議会では、四つの分科会、部会は勿論のこと、全体会での発言も多いことと思われるが、私の最も期待しているのは、第二分科会の、

「社会教育委員として、時代に即応した、社会教育団体を育成するにはどうすればよいか」

の問題である。私はこれを分解して、

① 育成することができるか、

② 時代に即応した：は可能か、

を考へてみる。そしてその第一点、「社会教育委員として」ということを強く考える。もし、他の者が育成するとしたら、民間団体のような、個人の結集による自主的育成か、或いは、市町村長、教育長のような管理主体者を考える。他にあるかも知れない。然し、これらは重要な存在で、自発的に経費の持てる人々と言つてよい。だが、管理主体者となると、現在の団体構成員から考へて、何か敬遠的なものに思う。それは、団体への交流が薄いのかも知れない。また、団体の自主性を尊重し過ぎる結果かも知れない。

そこで元に戻つて、「社会教育委員として」はどうであろうか、簡単に言つて、何もできないだろうと言つたら叱られるかも知れない。

然し、本当にそういうことにならないか。と、いうのは、社会教育委員の肩書をもっている方で、バッジをつけていることを妙に気にかけて止めたりしてないだろうか。もしそれが私の杞憂でしかなかったら、大会等に堂々と着けて来てほしい。

また、社会教育委員の総会とか、研修会に全員参加は恐らく見られない。病氣ならとも角、参加できない程の多用な人に、社会教育という仕事は困難ではないだろうか。特に驚くことは、市町村の代表としての参加であるのに、「予算的に旅費支給が無いので出席できません。」と。

市町村の社会教育費は一体いくらあるのかしら。教育費中の割合を平均値で眺めると、

市一三・四 町一四・七 村九・三%となつている。ある市の内訳は、給与九・七 施設費八二・〇 委員活動費七・二 文化財保護費〇・〇五 その他一・一%であった。

市町村によつて差はあるに違いないが、その社会教育活動費をあげれば最高七四・七 最低〇・三八%、低い方では、13.15%など平均三〇%にいつていない。

こういつた点を考へると、如何に社会教育委員が躍起となつても、その活

動は不可能に近いと言つて過言であらうか。

然し、社会教育委員が何もできないというのではない。社会教育関係団体の育成ができないというのでもない。やればできる。現に私の県においても、そうした団体育成は五〇%を越している。ただ、それには、最良の方法を講ずべきであり、その最善策こそ私の期待するものである。

週休二日制と社会教育

問宮 武

(静岡県社連事務局長)

過日、社会教育委員の会合の席で、ある県の連絡協議会の会長たる立場にある人の口から学校での週休二日制が実現することになると、子どもの学力は低下すると、非行化の慮れもあるから困るという意見があった。そのときの話題は別の筋であつたので、あえて反論するまでもないと思つたのでそのまままき流した。しかし、この人は伝統的な教育観の殻に閉ぢこもり、教育を理解していないんだなと思つた。こういう考え方をもち人は、この委員さんばかりでなくPTA関係の人びとの口からもよく耳にする。わが子を思う親心からの心配ならまだしも、広く社会教育を思い、その指導的立場にある人の意見としてはどうかと思う。

企業における週休二日制は従業員優遇の厚生施設が本音というよりも、経済社会における生産過剰の抑制と公害

活動の熱意と、財政的援護。そして忘れてならないことは、「時代に即応した団体の育成」であり結成ではなくて、飽くまで質的向上を目指しての育成でなければならぬと思う。

私は、社会教育委員のあらゆる活動を今よりも更に旺盛に、そして、積極的に展開していけるよう計らうことを希つてやまない。

対する人間の生き方の追求ということから発してのことと考えるべきものである。社会的に貧乏時代は生産第一主義で貫き、物と量において豊かな生活を求め、耐忍耐乏の生活倫理にもとづいて生き方を求めるというのが経済社会の特質である。仕事第一の生活はそれ自身が生き甲斐であり、その緊張解消は文字通り「余暇」において満たすといった生活形式であつたわけである。

ところが生産第一主義による生産過剰を抑制するには自主的に生産抑制をする必要があるし、公害に対して改めて人間らしい生き方を求めるとなると、心と質において豊かな生活をとることが要請される。いわば生産と消費との二元化。仕事と遊びとのバランス化といった等価的価値観の二元の生活が必要となる。そのような生活価値観の社会は経済社会から学芸化社会への転換を

意味する。そういう社会では「余暇」ではなくて「自由時間」というべきものである。こういう事情の下に生まれてきたのが企業における週休二日制である。いわば働き蜂とかエコノミック・アニマルから脱皮して生きる人間の復活が求められているわけである。これが繁栄の社会の中で人間の姿である。

さて、学校における週休二日制はこの事情に通ずるものがある。教師の週休二日制のおつき合いから児童生徒の週休二日制が必要だといふのではない。教師のそれと、児童生徒のそれとは意味が違ふ。教師の労働時間短縮による週休二日ということだけだったら、授業時間のやり繰りによつて児童生徒のほうは六日間登校も不可能ではない。実はそういうことではなくて、児童生徒のほうにこそ週休二日制が必要なのである。学芸化社会においてはガリ勉だけでは人間性に欠陥のあるものとなる慮れがあるからである。今までのような経済社会ではそのような人間性の欠陥はあまり目立たずに曲りなりにも社会に通用したのであろうが学芸化社会ではその欠陥が暴露し、人生の敗北者になりかねない。知育偏重による頭でっかちの尻つぼみのような人間形成の是正が必要なのである。いわば子どもの側の生産過剰に対する生産抑制と教育公害に対する人間らしい生き方がこれからの子どもに要請されるわけである。勉学と自由時間の等価的バランス

文化が必要であり、自由時間において自主的な幅広い人間教育が必要なのである。

これが学校の週休二日制なのである。そこで、この自由時間をどう過させるかが今後の重要な教育課題なのである。単に形式的に週休二日ということになれば、子どもは宿題と塾でがんばりがための生活に追い込められるだろう。これでは週休二日制は本末転倒であり、無意味なものとなる。

真に週休二日制か今日の課題であるならば自由時間の教育的充実化を考へるべきであり、社会教育がその主役を果さなければならぬだろう。といつて学校も家庭もそれに対応して体制を改変し、三者の協力体制が確立されなければならぬ。社会教育が独走することも不当であるし、三者の協力なくしては主役もできることでもない。子どもの教育に責任のある教師、親、社会教育指導者、教育行政のすべてが普通の今日的課題といえる。

神奈川県社連会長
文部省社教審議会委員

○社会教育委員は、いつもバッジを胸に、地域の人と語り合ひ、ともに歩み続けよう。

反省をふまえて建議へ

野村 長 三 郎

私は二十年程前に、川崎市PTA連合会長をつとめたとき、その代表として社会教育委員を二期二カ年勤めたことがあり、その後川崎市文化協会を代表して委嘱されてから三年になるが、まだまだ社会教育委員としては小学生同然で、委員会に出ても殆んど発言せず、他の諸先生の御意見を聞いて、目下勉強中というところである。

然し一昨年は大阪、昨年は札幌で開かれた全国大会に参加し、札幌大会では『過密都市と過疎都市における青少年対策』の分科会で提言者の役目を仰せつかり、市教育委員会で作成してくれた資料を、列車の中で勉強しながら出席したが、札幌に着くと主催者の方から提言の発表時間を制限されたため、折角の資料では役に立たなくなり、大慌てに慌ててその晩、宿舎に入ってから急いで原稿を作り直すという状態で、この辺りが社会教育委員小学生の情なさというところである。

分科会の話し合いの場では、過疎都市の方が多く、私のような過密都市もまた特殊といふべき川崎市とは、その立場が全く正反対であったが、逆にそれだけ得るところも多かったといふことは、このような過疎都市にあつては、青少年が都会に出て行ってしまうために残っているものが少い関係上、文字

通り搔ゆいところへ手が届くようなきメ細かな青少年対策が行なわれているといふことである。

それに反して、戦後人口十八万から約三十年足らずの間に百万都市へと、急激にふくれあがった川崎市の場合は、他府県からの青少年の流入が非常に多く、戦後生れが全人口の五〇%を占めている超都市型とあつては、これら若い人々に対する施設の間に合わないといふ状態で、過疎都市との大きな差のあることが痛感させられた次第である。

このような実態の中にあつて、川崎市社会教育委員会議では、昭和四十七年度の研究課題として、『本市における新しい社会教育施設（公民館）構想』を取り上げ、一年間に亘つて他都市の視察や小委員会を設置するなどして、そのまとめた結果を去る五月十五日に市教育委員会に建議した。

その内容は、公民館は『社会教育が最も力を入れるべきもので、地域における市民の日常生活と直結した学習活動の場』であることを強調し、このためには少くとも中学校区毎に各一館づつ公民館を設置することを提唱している。このほか①地域住民が容易に出入りできるようにする②利用手続きを簡便にする③初心者にも入りやすいよう

構造、運営を考えるなどの点をあげ、特に川崎市の場合には『新しい』ふるさと』作りを目指し、人間性の回復と市民性の高揚がはかられるよう内容を充実することを希望し、他の類似施設である市民館、図書館、青少年の家、青少年センター、勤労婦人会館などの機能、役割り分担、連携の強化などの必要性を述べたものとなつている。

さらに本年度は、これらの構想をふまえて、社会教育総合計画の策定に取り組んでいるが、『社会教育』は幼児教育にはじまつて老人大学まで、まさ

東海北陸地区研究協議会は、11月16日、三重県津市三重文化会館において開催が決定しており、中国地区においては、五月中国五県の連絡会議

宣 言 文 （関東甲信越静地区研究協議会）

経済社会の成長発展に伴い、社会的条件の変化は、さまざまな社会問題を提起し、なかでも社会教育は、その対処すべき広範多岐に亘る教育的課題を数多くかかえている。

われわれは、それらの課題解決のために、社会教育委員の役割と責任を深く自負し、本日ここに「地域社会と住民の要求に対処して、社会教育委員はなにをなすべきか」を求めて、真剣に討議をつみかさねてきた。

いまや週休二日制が実施されつつある局面に対応する社会教育は、生涯教育の理念のもとに、家庭教育・学校教育・社会教育のそれぞれの分野と役割

に人間一生の教育であると言われており、その全てを期することはまことに大きな仕事であつて、これに対処する社会教育行政は容易ではない。施設・予算はいうまでもなく、さらに重要なことはその衝に当る人材の問題である。これらを考へるとき百万都市川崎の社会教育委員として、果して行政をバックアップして遂行するだけの資格があるかどうか、自ら大いに反省させられている次第である。

（川崎市社会教育委員）

を開き、第16回（昭和49年度）全国大会を山口県において開催することを決定したほか、ブロック大会についても前向きに検討を加えた。

のうえにたち、しかも、有機的な新しい連帯方を確立するとともに、地域社会における人間性の回復と連帯意識の昂揚、社会教育施設の整備、社会教育指導者の充実強社会教育関係団体の充実強化、社会教育における傷害補償制度の整備、文化環境の整備等、社会教育における条件整備の必要性を痛感した。

よつて本大会の総意により、国・都県・市町村の行政当局に充分な予算措置を講ずるよう要望するとともに、今後これらの早期実現を期し、ここに宣言するものである。

ポランティアとして二十年

高野 久子

その昔 在原業平の「名にしおはば
いざ言問わん都鳥わが想う人はありや
なしやと」の古歌、または「向島の時
雨」に表現された北斎の名画に風光明
媚をたたえられた隅田川。

現在は濁り川となり果てたその川添
いに細長く伸びた大中小企業がひしめ
き合っている地域。人口五〇万を超え
た時期もあつたが現在は二七万人の町
これが墨田区です。

昭和二九年都から委嘱された青少年
委員が九名おりました。土地柄、勤勞
青少年人口の多い町で、特に中卒就職
者の流入は高率をしてみました。(同
年人口三〇万四千五百人)

青少年委員会は、まず勤勞青少年の
実態調査から始めました。大企業の勤
勞者は施設も完備され、余暇活動も活
発に行われ、待遇も生活環境も、零細
企業のそれとは比較にならない格差が
ありました。

週休二日制が始まった頃でしたが、
仕事の都合で日曜が休日とは限りませ
ん。そのために青年の家は憧れの的で
したのに、申込むこともできない。座
談会では強く意見はのべますが現実の
問題として仕事が決ると、工員一人二
人の町工場は家族全就労であり自分だ
け休めない、そんな時辛い、と青年は
言う。

その反面雇い主家族との間に時間や
物質に代えられない温かい心の交流が
ある、困っている時自分の権利だけ主
張することはできない、とも青年たち
は言います。

生活実態がつかめてくると雇い主と
の話し合いも効果的に行われるようにな
りました。教委開設の青年学級への参
加の誘い。未組織地域からの相談に対
しての助言や協力。グループづくりの
ために深更まで勤勞青年代表たちと話
合ったこともありました。

その結果主旨や活動が理解できた
多くの協力者を得ることができ、一同
感激、意を強く致しました。さらに家
庭教育の担当者である母親たちに、「青
少年に関心を」という呼びかけをし、
昭和三年五月の青少年保護育成月間
を機に「母親の起ち上り運動」として
啓蒙活動を年間を通して展開しました。
当時は、公民館はもとより区民会館、
青年館もなく、母親たちとの話し合い
は、社務所、お寺の庫裡、学校幼稚園、
柔・剣道場、午前中のお風呂やさん、
町の人々の善意と協力を通して「た
けはひらかれん」の言葉を、実感とし
て深く味わったことでした。

その会場を主軸として、好意による
お宅の縁側や路地うらの立話に至るま
で、区内全域にわたって母親たちとの

話し合いができました。

その積み重ねが話し合うことの素晴
しさを母親たちに教えたようです。「自
らの手による学習の場をもちたい」と
今まで考えても見なかった、純粋な願
いが運動になり、行政を動かし昭和三
二年三月、区共催の形で九分科会をも
つ大会となつて実を結びました。

もとより単発的な研修大会で八百名
出席という盛会でしたが、その後の反
省会で存続の希望がうち出され、周到
な準備会が青少年委員と母親との合同
でもたれ、同年六月、名称もそのまま
墨田区母親研修会として九五団体加盟
(内、区立小中学校PTA四一名参加)
発会いたしました。自主的学習団体と
して……。

墨田区商工青年文化教室は、勤勞青
少年を対象に開設された学校です。そ
の修了生が中心になつて生れた文化ク
ラブは、母親研修会とは親子関係で、
学習もレクリエーションも合同で何回
もいたしました。そのグループ内で結
ばれ誕生した新夫妻のお祝いパーティ
も合同で趣向をこらします。

文化クラブ第一回修了生は、昭和八、
九年生れを筆頭とする年代で昭和二三
年発足からのリーダー級は、現在社会
の第一線で活躍しています。したがつ
て既婚者も多くなり、同クラブの中に
「おしどり会」という年長組が生まれ
ました。彼らは出世魚と称しています。
昭和生れの名簿の筆頭に、明治生れ

の私が知らぬ間に名を連ねておりまし
た。

おしどり会は今年で五年目、会員は
毎年ふえ続けております。現在二五名
カップルなので実数五〇名、それに愛
児たち、小さな会場では間に合いませ
ん。

会員は他区に住む者、工場移転で地
方に住居がある者、とわかれ、わかれ
に住んでいても平常の連携の良さはそ
の消息がいつでもわかっていました。
そして楽しみも悲しみも嬉しいことも
辛いことも、共通に味わう、そんな毎
日が十五年以上も平凡に続いているの
です。

いまにして思うと社教委員であるな
しに拘らずポランティア活動はずっと
その以前から、空気のように私の生活
の中に溶けこんでいるようです。
(東京都社教委員)

あとがき

○金沢大会への参加者が日を逐つて増
えていることは嬉しい限りです。
○貴重な随想をお寄せ下さった先生方
に厚くお礼を申しあげます。

全社連会報 第3号

発行年月日 昭和48年9月1日
発行所 全国社会教育委員連絡協議会
〒100 東京都千代田区霞が関3-2-13
国立教育会館内
全日本社会教育連合会気付
TEL (03) 580-0608